闘いなくして安全なし

2026.10.27
No. 565

〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
https://dorocshien.stars.ne.jp/
info@doro-shien.site

組織、人事・賃金制度改悪―乗務手当廃止反対！　強制配転するな！　融合化、ワンマン化反対！　ローカル線切り捨てやめろ！

こんなものは「業務」ではない!

「委員会活動」を強制するな

委員会活動と称する生産性向上運動が現場に強制されています。「有志」の活動とされていながら、幕張車両センターでは全員が強制的に何らかの委員会に割り振られています。さらに、担務指定に委員会活動が指定され、「業務として強制」まで行われているのです。

競争と蹴落とし合いを強制

委員会活動は、労働者に自分たちで「経営のため」「合理化のため」「金儲けのため」になることをやらせるものです。労働者同士で監視と蹴落とし合いを強制する攻撃であり、自分の手で自分の首を絞めさせようとする攻撃です。

ＪＲ東が今年4月に発表した経営ビジョン「勇翔２０３４」では、「社員一人ひとりが起業家精神を高めよ」と語られています。労働者としての意識を解体し、「経営者の立場で物事を考えろ」というのです。これがまさに委員会活動で行われていることです。

グループ理念では、「全社員で安心と感動を持続的に生み出す」ことが打ち出され、グループ会社の仲間にまで「感動したことは何ですか」というアンケートが行われ、「感動を与える接客をしよう」と言われています。

現場では日々、車両をメンテナンスし、清掃し、列車の運行と安全を守っています。委員会活動など「業務」でも何でもありません。

何が「経営者の立場に立て」だ!

「経営者の立場に立て」という会社のやってきたことは何でしょうか。

鉄道業務をバラバラにして外注化し、ＪＲ本体の仲間には出向を強制し、職名を廃止し、今年４月には人事・賃金制度を抜本的に改悪し、定期昇給や基準内賃金、乗務手当まで廃止しました。

グループ会社には徹底したコスト削減を強制し、まともな清掃もできないような要員不足と超低賃金を強制してきました。検修業務でも休勤が続発しています。

ここまで現場を踏みにじっておいて「経営者の立場に立て」？　本当にふざけています！

団結して闘いに立ち上がろう

現場をどこまでもないがしろにする会社の施策は、すべてが破たんしようとしています。重大事故が続発し、要員確保もまともにできず、喜勢社長自身が「外注化のスキームは破たん」と言わざるを得ない現実です。

労働者と資本家は「水と油」の関係であり、絶対に相入れない関係です。そうである以上、労働者の権利や生活、職場、労働者としての誇りや団結も、闘うことによってしか守れません。そして、団結して闘いに立ち上がれば、必ず展望は生まれます。すべての仲間は動労千葉とともに闘おう。